様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　５月　１０日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008～2010
課題番号：20710188
研究課題名（和文）資源を巡る対立・協調の多元性と固有性：東南アジアの事例から

研究課題名（英文）Plurality and Peculiarity of Resource Conflict and Cooperation: Cases from Southeast Asia

研究代表者
生方　史数（UBUKATA　FUMIKAZU）
岡山大学・大学院環境学研究科・准教授
研究者番号：30447990

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、東南アジアにおける様々な事例から、資源を巡る対立と協調に関連する政治的なプロセスを明らかにすることである。現地調査や事例サーベイなどを行った結果、(1)国家主体の「従来型」資源管理制度が、「住民参加型」や「市場志向・グローバル型」の制度を取り込む形で変容しつつあること、(2)このような変容が、様々な経路を辿りつつも、全体としては上からの論理を強化しつつあること、(3)インフォーマルな制度的基盤を有する「強くしなやかな社会」が、上からの論理に対抗したり、制度をうまく使いこなしたりする可能性を持つことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）: Taking the cases from Southeast Asia, this study explores the political process of resource conflict and cooperation. Literature surveys, intensive and extensive fieldworks revealed following characteristics: (1) the existing state-oriented resource management regimes are changing toward more “participatory” or “global-oriented” ones. (2) these changes occur with different national and regional contexts, which as a whole is likely to enforce the power from “above”. (3) a strong and resilient society which has a firm informal institutional basis can resist or cope with, or even utilize such infiltration of power.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総　計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：東南アジア地域研究、資源経済学、開発学、ポリティカルエコロジー
科研費の分科・細目：地域研究・地域研究
キーワード：東南アジア、資源、制度、コンフリクト、協調、アクター、ガバナンス

１．研究開始当初の背景

資源を巡る争いは、古今東西、村落間、地

域社会間、国家間などの様々なスケールで頻繁に行われてきた。現代社会では、資源の枯渇あるいはグローバルなレベルでの資源への需要の高まりが、世界各地で起こる様々なコンフリクトや紛争の重要な要因となっている。

一方で、視点をローカルなレベルに転じれば、資源を巡る争いが当事者間の協調やルール・制度の形成といった集合行為へと結びつき、資源の効率的・持続的な管理を生み出した多くの事例を見ることができる。

しかし、このようなローカルなレベルにおける協調が、必ずしもより大きな地域レベルにおける協調やガバナンスの向上へと結びついておらず、結果として異なる地域レベルやアクターにおけるコンフリクトや紛争に繋がっていることも多い。今まさに、ローカルな「地域の論理」と上位の地域レベルにおける論理を接合する制度や規範が必要とされているのである。

２．研究の目的

現代社会において、資源を巡る争いはローカル、ナショナル、グローバルの各レベルで激しさを増しており、これらの対立を協調へと導く制度や規範の生成が焦眉の課題となっている。本研究では、東南アジア大陸部と島嶼部における様々な事例から、資源を巡る対立と協調に関連する政治的なプロセスを明らかにする。また、それらのプロセスが持つ多元性と固有性、ひいては経路依存性を考慮しつつ、対立から協調への移行プロセスを提示することで、地域に固有で多元的なガバナンスのあり方を検討する。

３．研究の方法

以下3つの手順で研究を進めた。第一に、大陸部及び島嶼部において資源を巡る対立と協調が見られる事例の情報を、資料収集や調査によって集める。集めた事例を検討して、「対立プロセス」と「協調・制度化プロセス」それぞれを、以下の4点に注目して整理し、概念化する。

(1)資源の性質、地理的配置

(2)地域レベルとアクターの多様性

(3)各アクターの問題認識と行動原理

(4)アクター間の相互交渉を構成する各要素と、相互交渉の結果が織りなすサイクル

第二に、「対立プロセス」が「協調・制度化プロセス」へと移行するプロセス、あるいはその逆のプロセスを事例から考察し、同様の観点から「移行プロセス」として概念化する。さらに、これらのプロセスの経路分岐を、事例を比較しながら分析していく。第三に、「協調・制度化プロセス」や「移行プロセス」のガバナンスへの影響と今日的意義及び限界を、事例をもとに検討していくとともに、地域に固有で多元的なガバナンスのあり方の提言へとつなげていく。

４．研究成果

2008年度は、以下の三点に関する研究活動を実施した。第一に、資源を巡る対立や資源紛争、協調、集合行為、ガバナンスを扱った文献をサーベイし、その理論的含意を再検討することで、東南アジア大陸部と島嶼部を比較するいくつかの軸を設定した。

第二に、研究対象とする資源を、パルプ用材、ゴム、油ヤシ、サトウキビ、茶などのプランテーション作物と森林資源管理に絞り、現地の研究機関との連携のもとで現地調査や資料収集を行った。第三に、この分野の既存研究であるポリティカルエコロジー論とエコロジー近代化論を批判的に援用しながら、パルプ産業の原料調達システムの成立過程を上述の比較軸に基づいて再検討した内容をまとめ、公表した。内容は国内外の研究者からも反応がよく、更なる成果を上げるために現在

作業中である。

2009年度は、初年度同様に現地調査や資料収集を行いつつ、「研究の方法」で述べた枠組みに基づいて、東南アジアの様々な森林管理制度が地域社会に与える影響を検討し、地域住民の目線からガバナンスのあり方について考察した。

その結果、(1)国家主体の「従来型」森林管理制度が、「住民参加型」や「市場志向・グローバル型」の制度を取り込む形で変容しつつあること、(2)このような変容が、各社会におけるアクターの配置構造によって異なる経路を辿りつつも、全体としては「上」からの論理を強化する結果を生みつつあること、(3)しっかりとしたインフォーマルな制度的基盤を有する「強くしなやかな社会」が、このような「上」からの制度に対抗したり、制度をうまく使いこなしたりできる可能性を持つことが明らかになった。これらの成果は2010年3月に図書として出版した。図書は、既にいくつかの学会誌で書評の対象になっており、今後は英文で再編集した図書の出版も企画している。

最終年である2010年度は、「協調・制度化プロセス」と「対立プロセス」とを分岐する要因や、「移行プロセス」を想定する際に必要とされる検討事項などを考察するため、これまでに得られた森林ガバナンスに関する知見と併せて、熱帯アジア地域の森林管理制度が特定のガバナンスの形をとるに至った経緯を地球史的な視点から解釈し、東アジアにおけるプロセスとの比較を試みた。

その結果、(1)19世紀以降のアジアにおける森林管理制度と技術の発展が、「普遍化」と「現地化」という二つの方向に進んできたこと、(2)東アジア、特に日本では、西洋からの森林管理制度や技術を比較的柔軟に「現地化」し、適用・運用することができた一方で、熱帯アジア地域の多くは、制度や技術を「現地化」する試みがありながらも、総じてそれらに大きな困難が伴ったこと、(3)近代（植民地）国家の形成と浸透の速度・強度に応じて管理制度や技術の浸透に差がみられ、それに応じて在来社会の「適応（あるいは非適応・抵抗）」の様相も異なっており、この点において東アジアと熱帯アジアの諸経路を統一的に類型化できること、(4)熱帯アジアにおける「現地化」への障害は、森林を自然物としてみる側面においてよりも、政治空間としてみる側面において顕著に現れており、しかも時代が下るにつれて後者の重要性が増してきたことなどが明らかになってきた。

一連の分析はまだ継続中であるが、既に成果の一部は、論文として今年度末に刊行される図書に掲載されることが決まっている。来年度中も、更なる検討を進めていきながら、成果を図書や論文として出版していく予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 8 件）

① 生方史数、2010、制度の理念的設計・自生的進化とその整合化：タイの共有林管理の事例から、社会と倫理、査読有、24、31-47

② Ubukata, F. 2010. “The Decentralization or Centralization? The CBNRM Policy and Its Local Impacts in Thailand,” In *Proceedings of The 2010 International Conference on Community Forestry*. 査読無、pp. 60-72

③ 生方史数、2010、研究レポート：変化を読む 2「コモンズにみる『見えざる手』と『見える手』」*SEEDer* 、査読無、2、74-78

④ Ubukata, F. 2009. “Determinant Factors of Communal Forest Management: Cases in

Yasothon, Northeast Thailand," In *Proceedings of the International Workshop on Local Conservation and Sustainable Use of Swamp Forest in Tropical Asia*. 査読無、pp. 89-95

⑤ Ubukata, F. 2009. "Formal/Informal Gap as a Factor in 'Green' Environmental Issues," In *Conference Papers, "International Environmental Treaties: their Role, their Possibilities, their Risks and Limitations*." 査読無、pp.97-107

⑥ Ubukata, F. 2009. "Science as a Decontextualization: Contested Rationalities on 'Eucalyptus Debate' in Thailand," In *Proceedings for the First KASEAS/CSEAS Joint International Symposium, Interdependency of Korea, Japan and Southeast Asia: the Migration, Investment, and Cultural Flow*. 査読無、pp.21-36

⑦ Ubukata, F. 2009. "Bridging the Formal-informal Gap? Changing Institutional Arrangements in Communal Forest Management in Thailand," In *"Biosphere as a Global Force of Change," Proceedings of The Second International Conference of Kyoto University Global COE Program, In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa*, **査読無**、pp.43-69

⑧ Ubukata, F. 2008. "Changing Boarders of the Management Unit: an Effect of Decentralization and Formalization in Communal Forest Management, Yasothon, Thailand". A Paper presented at the 12th Biennial Conference, International Association for the Study of Commons, 査読有、http://iasc2008.glos.ac.uk/conference%20papers/papers/U/Ubukata_128401.pdf

〔学会発表〕（計 20 件）

① 生方史数、熱帯アジアの森林管理制度－その形成、発展、変容－、京都大学GCOE研究会「農業・森林の管理制度の広域アジア間比較—村落構造と歴史的発展径路」、2010年12月23日、京都大学東南アジア研究所

② Ubukata, F. "The Decentralization or Centralization? The CBNRM Policy and Its Local Impacts in Thailand," The 2010 International Conference on Community Forestry, Dec. 8-9, 2010, Forestry Bureau, Council of Agriculture, Taipei, Taiwan

③ Ubukata, F. "The Development of Raw Material Supply System in Thai Pulp Industry: A Comparative Perspective," Southeast Asian Geography Association Conference 2010, Nov. 23-26, 2010, Hanoi National University of Education, Hanoi, Vietnam

④ 生方史数、村落自治における二つのガバナンス：タイの共有資源管理の事例から、「農村社会構造の広域アジア間比較」第1回研究会、2010年10月10－11日、青山学院大学

⑤ 生方史数、生産関係から地域をみる：東南アジアのパルプ産業とその原料基盤、第10回アブラヤシ研究会、2010年6月19日、京都大学東南アジア研究所

⑥ 生方史数、制度設計と自生的進化：タイの共有林管理の事例から、南山大学社会倫理研究所設立30周年記念公開シンポジウム「誰が環境問題を考えるのか—環境政策における地域レベルの視点と取り組みの重要性」、2010年5月29日、南山大学社会倫理研究所

⑦ 生方史数、CBNRMと二つのガバナンス、

「資源ガバナンスと利害協調」研究会、2010年1月15日、JICA研究所

⑧ Ubukata, F. “Determinant Factors of Communal Forest Management: Cases in Yasothon, Northeast Thailand,” International Workshop on Local Conservation and Sustainable Use of Swamp Forest in Tropical Asia, December 19, 2009, Tinidee Hotel, Ranong, Thailand

⑨ Ubukata, F. “Formal/Informal Gap as a Factor in ‘Green’ Environmental Issues,” International Conference, International Environmental Treaties: their Role, their Possibilities, their Risks and Limitations, September 15-18, 2009, Nanzan University Institute for Social Ethics, Nagoya

⑩ Ubukata, F. “Science as a Decontextualization: Contested Rationalities on ‘Eucalyptus Debate’ in Thailand,” The First KASEAS/CSEAS Joint International Symposium, Interdependency of Korea, Japan and Southeast Asia: the Migration, Investment, and Cultural Flow, June 19-20, 2009, Gyeongsang National University, Jinju, South Korea

⑪ Ubukata, F. “Bridging the Formal-informal Gap? Changing Institutional Arrangements in Communal Forest Management in Thailand,” The Second International Conference of Kyoto University Global COE Program, In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa, “Biosphere as a Global Force of Change,” March 9-11, 2009, Inamori Center, Kyoto

⑫ Ubukata, F. “Science in the Policy Making: the Eucalyptus Debate and Villagers in Thailand”. International Symposium on Forest Policies for a Sustainable Humanosphere, February 17-18, 2009, Center for Integrated Area Studies, Kyoto University, Inamori Center, Kyoto

⑬ 生方史数、二元論を超えて：タイの林業・森林保全の現場から考える、ワークショップ『アジアの森林保護政策・制度による人々の暮らしへの影響と対応』、2008年12月26－27日、総合地球環境学研究所

⑭ Ubukata, F. “Changing boarders of the management unit: an effect of decentralization and formalization in communal forest management, Yasothon, Thailand”. The 12th Biennial Conference, International Association for the Study of Commons, July 14-18, 2008, University of Gloucestershire, Cheltenham, England

〔図書〕（計 8 件）

① 市川昌弘、生方史数、内藤大輔編　2010、『熱帯アジアの人々と森林管理制度：現場からのガバナンス論』人文書院、278

② 市川昌弘、生方史数、内藤大輔、2010、森林管理制度の歴史的展開と地域住民、市川昌弘、生方史数、内藤大輔編、『熱帯アジアの人々と森林管理制度：現場からのガバナンス論』人文書院　7-22

③ 生方史数、2010、コミュニティ林政策と要求のせめぎあい：タイの事例から、市川昌弘、生方史数、内藤大輔編、『熱帯アジアの人々と森林管理制度：現場からのガバナンス論』人文書院　109-127

④ 生方史数、市川昌弘、内藤大輔、2010、ローカル、ナショナル、グローバルをつなぐ、市川昌弘、生方史数、内藤大輔編『熱帯アジアの人々と森林管理制度：現場からのガバナンス論』人文書院　243-261

⑤ 生方史数、2009、ユーカリ論議から見え

てくるもの、加瀬澤雅人、田辺明生編『技術と社会のネットワーク―研究課題と展望―』43-57. Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, pp.43-57.

⑥ Ubukata, F. 2009. “Science in Policy Making: the Eucalyptus Debate and Villagers in Thailand”. In Wil de Jong (ed.), *Forest Policies for a Sustainable Humanosphere*, Center for Integrated Area Studies, Kyoto University, pp.57-63.

⑦ Ubukata, F. 2009. *Getting Villagers Involved in the System: The Politics, Economics and Ecology of Production Relations in the Thai Pulp Industry*. Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University. 40

⑧ Ubukata, F. 2008. *The Institutional Formation Process of Communal Forest Management in Northeast Thai Villages*. Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University. 46

６．研究組織

(1)研究代表者

生方　史数（UBUKATA　FUMIKAZU）
岡山大学・大学院環境学研究科・准教授
研究者番号：30447990

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし